

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071201390		
法人名	社会福祉法人 皆楽園		
事業所名	グループホームなごみ ユニット1		
所在地	和歌山県岩出市水栖644-1		
自己評価作成日	平成26年1月14日	評価結果市町村受理日	平成26年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3071201390-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成26年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の方がその人らしく安心して暮らせるように職員全員で取組んでいます。ご家族と共にその人の思いに寄り添い、重度化されても出来る限りその方の力を引き出せるように支援しています。季節の行事やドライブなど楽しんで頂ける機会を多く取り入れるように努力しています。地域の祭り等にも参加させて頂き、交流を持って頂ける機会を作っています。ご本人やご家族の笑顔があふれるグループホーム作りを心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に込めた思いを職員と共有し、利用者が地域の中で安心して暮らせるように日々のケアの中で実践しています。地域の寺へ出向き花祭りに参加したり、地藏盆で利用者も護摩木焚きに今年始めて参加しています。地域へ積極的に出て行ったことで、声をかけてもらえるきっかけとなり地域との交流が広がっています。店でドーナツを選んで喫茶を楽しんでもらう事で利用者の笑顔や会話が見られ、新たな発見に繋がっています。上司や管理者は職員に働きやすい職場環境となるよう気を配り、職員の離職も少なくチームワークの良さがホームの穏やかな雰囲気となり、利用者や家族の安心に繋がっています。年々、車椅子の利用者が増え重度化されていく中で職員は常に利用者一人ひとりゆっくり関わり、利用者の笑顔が見れるよう日々のケアにあたっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で安心して暮らせる支援を理念にし、スタッフ全員が目につく場所に掲示し、朝礼、会議前に全員で唱和し理念を意識しケアに繋げている。	法人の理念をもとに職員と話し合い作られたホーム独自の理念は、地域の中で安心して暮らせるようにとの思いが込められ、理念が意識できるようフロアやトイレに掲示し、会議やミーティング毎に唱和し理念に沿ったケアが日々実践できているか振り返っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の側溝掃除への参加や中学生の体験学習の受入、地域のお寺の行事にも参加し地域の方々との交流に勤めている。	自治会に加入し、運営推進会議で地域の情報を得ています。溝掃除には職員が参加し挨拶を交わしています。近所の寺の催しである地藏盆の夜店や花祭りに参加したり、地域の行事の子供みこしを見に出かけています。地域の方が踊りや唄、マジック等、ボランティアで来訪され、中学生の体験学習の受け入れなど交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に運営推進会議を開催しグループホーム内を見学して頂き、認知症の方の理解や支援方法等を話し合い情報交換している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の各ユニット別の活動やご利用者へのサービス報告や研修報告を行い、参加者の助言や意見を受けて話し合いサービスの向上に努めている。	運営推進会議は市職員、地域包括支援センター職員、区長、副区長、民生委員の参加を得て2ヶ月に1回開催されています。活動報告や利用者の状況、資料を用いて研修の報告をしています。重度化や介護保険制度についての質疑応答が活発に行われています。参加者の意見よりユニットごとに行事の報告をしています。	運営推進会議で話し合われていることやサービスに活かした事など伝え、家族も会議に参加できるよう呼びかけてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回出席して頂き、事業所の実情や取り組みを理解して頂いている。又、機会ある毎に相談させて頂いている。	運営推進会議でホームの実情を知ってもらい、分からない事があれば直接市へ出向き、市職員とは顔見知りで気軽に相談できる協力関係が築かれています。市からの研修案内が届いた時は、積極的に研修に参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング時の話し合いや研修への参加で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について内・外部研修に参加し、ミーティングで報告し話し合っています。身体拘束をしない事を基本とし、危険が伴う場合は家族と話し合い行うこともあります。出来だけ早く改善できるように取り組んでいます。言葉の拘束については、事前に行動を察知し理由を考え、行動を制止しないように努めています。玄関はセンサーを付け開錠し、外に行きたい様子が見られたら一緒に付き添ったり見守りをしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にも参加し、高齢者虐待防止や身体拘束に関するマニュアルを作成し自己チェックリストで周知徹底を図っている。		

グループホームなごみ(ユニット1)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用されている方もおられ制度についても理解している。又、研修にも参加し学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書をもとに医療や退居に関する事項等、事業所対応可能範囲について説明し、理解と了承を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の思いを聞き利用者本位のケアに努め、ご家族の面会時には要望等を聞くようにしている。	面会時や電話で利用者の日々の様子を報告したり、毎月の請求書送付時に利用者の生活状況を報告して意見や要望を聞いています。利用者には日々の会話を傾聴しながら意見や思いを引き出すように努めています。食事量が少ない場合や偏食の方への対応は、医師に相談しながら好きな物を食べてもらうなど、家族の要望に応じて改善できるように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング以外にも職員の意見を聞く機会を作り、日頃からコミュニケーションを図るようにしている。	ミーティングやユニット毎に行われる月1回の会議、また年2回の個人面談で意見や提案を聞いています。利用者の重度化に伴い対応方法等、ケアに関する意見が多く出され、皆で検討して統一したケアの実践に繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスの導入と人事制度の改訂により年2回の人事考課を行い、職員が目標を持って働ける環境を設備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や法人内研修に職員全員が参加出来る機会を作るように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	和歌山県認知症支援協会に加盟しており、研修に参加し交流を持ちサービスや質の向上に取り組んでいる。		

グループホームなごみ(ユニット1)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の要望等を聞く機会を作り、状態を把握し安心して生活して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いを十分理解し、事業所が対応出来る範囲について話し合う時間を作り、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族のニーズに応じたサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る事、やりたい事を自由に出る様、家事労働等、手伝って頂ける事も一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の絆を大切に自由に面会し外出したり、ホームで一緒に過ごせる機会を作り、共にご本人を支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医の受診や馴染みの場所へ出かけたり等、支援に努めている。	以前暮らしていた所の友達が面会に来られた時は居室へ案内し寛いでもらいます。自宅の周辺をドライブしたり、行きつけのスーパーに買い物に出かけています。家族と行く外食や墓参り、法事、全員がこれまでのかかりつけ医を継続されるなど、馴染みの人や場所との関係が途切れない支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係性を把握し、状況に応じて共に暮らせる関係作りを築ける支援に努めている。		

グループホームなごみ(ユニット1)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所され、他の施設に移られてからも時々様子を見に行くなど関係を持つよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中でその人らしく過ごして頂けるよう、日常の会話などから希望する意向を聞き取り自分らしく暮らしていけるように努めている。	入居時に本人や家族から聞き取った生活歴や意向は基本情報に記入し思いを把握しています。入居してからは日々の関わりの中で利用者の言葉や表情、しぐさ、行動をアセスメントシートに記入し思いを汲み取り、職員間で情報を共有しています。困難な場合は家族から情報を得ています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントを利用し、ご家族様やご本人様との会話や日常の行動を見て把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「一日の流れ」を記入し行動パターンなどの生活リズムを把握し変化について常に意見を出し合いいつでも対応できる様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様の思いを聞きご本人様を支援していく為に日々の暮らしでの変化や出来事を的確に伝え情報の共有を行い密な連絡を取るよう努めている。	アセスメント用紙や記録のファイルに目を通し、本人や家族の思いを基にケース会議を開催し、介護計画を作成しています。毎月全員がケース会議に参加しモニタリングを行い、介護計画は3ヶ月毎に見直しています。状態に変化があれば主治医に報告し、主治医の意見を家族に伝えて介護計画に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「一日の流れ」や生活状況表を作成し、食事、排泄、睡眠などの一日の生活の流れを記録している又一日の流れにおいて生活状況、行動、言ったことなど援助内容に分ける。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状態に応じ通院、買い物、散髪などの支援を相談しながら行っています。		

グループホームなごみ(ユニット1)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中学生の職場体験受入やボランティアの方達に来て頂き地域交流に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望に応じたかかりつけ医の受診や通院をしており、ご家族が同行出来ない時は職員が代行している。	全員が馴染みのかかりつけ医を継続しています。受診は家族対応ですが、専門医の受診も含め家族が行けない時は、職員が受診の支援をしています。緊急時は往診を受けたり、主治医との情報交換や法人の看護師の協力も得ながら話し合っており連携を図っています。歯科は必要な方が通院や往診で治療を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師と連携を取り、ご利用者の状態が変化した時等、相談しながら健康管理の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には病院関係者に日常の様子等、ご家族と相談しながら情報提供し、入院中は頻繁に見舞い早期退院出来る様支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の際には、ご家族や医師と相談し事業所で最大限の対応が出来るよう取り組んでいる。	契約時に看取りの支援は行っていないと伝えていますが。重度化や看取りについて、身体的な機能低下などに伴いホームでケアできることを具体的に説明し、他施設への入所も視野に入れ相談しながら方針を共有しています。家族の意向を大切にしながら医師や家族、職員と連携を図り出来る限りの支援をしていきたいと考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内外の研修会や講習会に参加し急変に対応出来るよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練を行ったり、消火器の使い方や避難経路の確認を行っている。	避難訓練は年2回実施しています。自主訓練と年1回は消防署の立会いのもと昼夜を想定し、マニュアルに沿って通報、初期消火、避難誘導の訓練を行い、利用者も参加しています。運営推進会議では区長に依頼して地域に参加を呼び掛けてもらっています。	

グループホームなごみ(ユニット1)

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の状態に合わせさりげない声掛けや介助でプライバシーを損なわないように支援している。	法人で行われる接遇や権利擁護についての研修を受け、その中で尊厳について学んでいます。トイレ誘導時は耳元で声をかけ、さりげない誘導を行い、ドアの閉め忘れがないよう気をつけています。利用者に合わせた方言を使って言葉かけをする時は、馴れ馴れしくならないよう誇りやプライバシーを尊重した対応に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の意思を押し付けず、ご利用者が選択できる場面を作るなど意思表示が難しい方には表情や態度から思いを汲み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のペースを大切にし、一人一人の個性をいかした支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の好みや生活習慣に合わせた身だしなみを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の出来ることを大切にし、その人に合った事をして頂き、食事においては誕生日には、好きな食事を作り、時にはその日何を食べたいか聞き一緒に作るなどして食事を楽しんで頂いている。	献立は利用者に食べたい物を聞き、その日の食材を見て決め、3～4日毎に利用者と買い物に行っています。下ごしらえ、盛り付け、後片付け等、出来る事を職員と一緒に言い、同じテーブルを囲み同じものを食べ食事を楽しんでいます。リクエストでクリスマスに寿司を注文したり、誕生日には希望を聞き外食の支援をし、外食に行かない方には好みの物を聞いて特別メニューを提供しています。手作りおやつを楽しんだり、畑で採れた野菜が食卓に上る事もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を個別に時間別に記入し把握し栄養バランスにおいては法人内の栄養士に定期的にアドバイスを受けている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者個々の状況に合わせて必要な方に関しては、口腔ケアや義歯洗浄剤をしようしている。		

グループホームなごみ(ユニット1)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態に合わせ行動に注意しながら誘導している。	排泄チェック表で一人ひとりのパターンを把握し、トイレで排泄できるよう支援しています。表情や行動を見逃さず、早い目のトイレ誘導をしています。夜間は紙パンツとパットを使用している方が、日中は布パンツとパットで対応し、トイレに行く時に見守るように支援したことでパットの使用が減ってきています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活状況を把握し、水分摂取や食事などで予防に取り組んでいる。下剤服用時の方には、主治医と相談して調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調や拒否などがある方には声掛けや少し合間を置くなど工夫している。	入浴は午後から16時頃の間で各日に入浴し、日曜日は清拭と足浴を全員に行っています。重度な方は二人介助を行い、拒否傾向で入浴回数が少ない方を朝起きた時に清拭を毎日行い、気持ち良さを味わってもらう事で入浴の回数が増えています。好みの石鹸やシャンプーを使ったりゆず風呂や入浴剤で香りを楽しみ、歌を歌いながらゆっくり楽しめる支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調を見ながら居室や和室などで休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用など全員が把握できるよう通院日誌を作成し飲み忘れの無いよう見守り、記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事などは、利用者の得意な分野でして頂き誕生日には、希望されるメニューを聞きケーキを囲み、皆でお祝いをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食や身の回りの買い物や散歩、ドライブに出かけています。又お花見祭り見学に行きます。	気候の良い日は近所を散歩したり、畑の世話や中庭に出て日向ぼっこをしています。車椅子の方もドライブで神社や寺へ出かけています。個別外出で外食や買い物に行き、初詣や春には弁当を持って花見にも出かけます。ホームの夏祭りには家族も参加し、玄関で花火をするなど、外気に触れる機会を作っています。	

グループホームなごみ(ユニット1)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談しながら管理が困難な方は職員が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればご家族、ご友人に電話をかけられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて室温や湿度を調整し飾りつけも季節に合わせて変えている。	玄関やフロアーには手作りの季節の飾りつけや生花が活けられ、畳コーナーには掘りごたつや七段飾りの雛人形が飾られ家庭的な雰囲気となっています。中庭を一望できる広いリビングには食卓、ソファ、テレビ等の配置を工夫し、ゆったりと寛げるスペースがあり、食事を作る音や匂いが生活感を漂わせています。温度や湿度、換気、清掃にも気を配り居心地の良い空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様の話の会う人を考慮し、くつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に馴染みのあるものを持ち込んで頂けるように話をし、過ごしやすい様につとめている。	各居室にはベッドとクローゼットが用意され、洗面所とトイレが設置されています。仏具やテレビ、椅子など使いなれた馴染みの物を持ち込み、自宅で作った手芸の作品や家族から送られてくる絵手紙、家族の写真が飾られ、落ち着いて安心できる居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを必要な場所に設置し安全に自立した生活を送れるようにしている。		